



地域おこし協力隊って？

都心部から人口減少や少子高齢化などの課題を抱える地方へ移住し、地域の新たな担い手として農業・事業承継・情報発信などの「地域協力活動」を行いながら、地方への定住を目指す取り組みです。任期はおおむね1～3年。小坂町では現在4名の隊員（石橋辰耶、猪野直子、齋藤慶顕、田代俊之）が活動しています。最近の活動内容を紹介いたします！

◆初夏の小坂七滝ワイナリー

7月に入り、記録的な暑さの日が続いています。小坂七滝ワイナリーを訪れた7月8日は快晴で、ぶどう棚の下の温度計は朝のうちに33℃を記録。この1か月ほどの間に、低温が続いた春先の遅れを取り戻すかのように、ぶどうは元気に新梢（ツル）を伸ばし、たくさんの実をつけていました。

この時期に行われる作業は、下草刈りや薬剤散布、新梢の誘引、摘果などですが、今年はワイナリー初の試みとして「傘がけ」にも取り組んでいます。天然の山ぶどうに近く、比較的丈夫な「岩木山ぶどう」などには不要だそうですが、繊細な「小公子」などの品種は、雨に濡れると割れたり病気になったりしやすいため、紙でぶどうの房を巻いて傘のように留め、雨水が直接ぶどうに当たらないようにします。手間はかかりますが、収穫を迎える頃の天候をあまり心配しなくても済むようになれば、安心です。

傘がけは強すぎる陽射しを和らげる効果もあるようです。これからは全国的にぶどうの高温対策が必要になるのかもしれませんが。

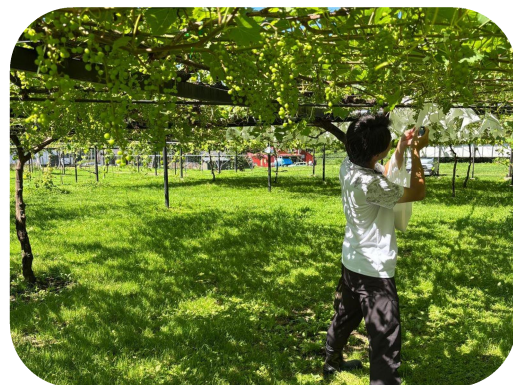
傘がけの作業は、ぶどうが色づいてくる8月初旬まで続きます。熱中症、スズメバチ、クマに気をつけて、安全に作業してくださいね！



「紙のツルツルの面が外側、ザラザラのほうが内側…」と



繊細で涼しげな「小公子」



齋藤慶顕さんが一つひとつ丁寧に留めています



グイグイ伸びる岩木山ぶどう

◆小坂・ふるさとの森づくり植樹祭

6月20日「小坂・ふるさとの森づくり植樹祭」が「DOWAの森」で開催され、田代俊之さんと猪野直子が参加しました。

旧小坂鉱山の煙害で失われた緑を取り戻そうと、20年前から行われている植樹祭は今年で15回目。この日は快晴で真夏のような陽ざしの中、DOWAグループや町民のみなさん、小坂小学校五年生の子どもたちなど約250名が、1200本の苗木を一齐に植樹しました。

植えられた苗木は、本来ならこのあたりの山に育っていたであろう、ブナやミズナラ、ケヤキ、カエデなど15種類。約40cmほどの狭い間隔で、ランダムに多様な樹種を植えていき、雑草が生い茂らないよう地表はクローバーで覆い、その後は自然な経過に任せる…という実験的な方法だそうです。少しずつ、ゆっくりりっかり、育ってほしいです。



ブナ・ミズナラ・ケヤキなど15種類の苗



一齐に、どんどん植樹！



秋田ノーザンハビネッツの土屋選手も



田代俊之さん「緑の大切さを実感！」

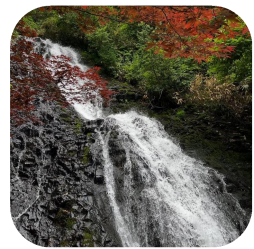


20年後は豊かな森に

◆協力隊 Instagram のフォローもお願いいたします！



@KOSAKAKYORYOKU



「小坂町地域おこし協力隊かわら版」はおおむね毎月10～15日ごろにゆるく発行予定です。みなさんの小坂町での暮らしや取り組み、イベントなどの情報をお知らせください！

編集・発行 小坂町総務課企画財政班（地域おこし協力隊 猪野） 0186-29-3907